連載 第4回

「都立高校教育支援コーディネーター」

第4回目は、都立国際高等学校で、教育支援コーディネーターとして活躍されている、特定非営利活動法人NICE（Never-ending International workCamps Exchange:日本国際ワークキャンプセンター「以下「NICE」という。）の取組を御紹介します。

都立国際高等学校では、「社会の一員としての自覚や責任感を身に付けること」や「国際理解教育を通じ、将来地域社会に貢献できる資質を育成すること」などを目標に、1年次「奉仕」の授業を行っています。

NICEは、11月から12月にかけ、計3回、授業の支援を行いました。

【11月13日（火）・特別講演会（事前学習）】

NICEグループワークキャンプ事業部長の穴竈（あながま）　美和さんから、熊本県で行われた国際ワークキャンプ活動の紹介がありました。

国際ワークキャンプとは、世界の若者が数週間一緒に暮らし、住民たちと共に、環境・文化保護、福祉、農村開発などに取り組む、国際ボランティアプロジェクトのことです。世界中の人たちが、共同生活をしながら、ボランティア活動を行っている様子が、ビデオで紹介されました。

次に、1か月後の授業で行う、アクリルたわしづくりの意義について、話がありました。

アクリルたわしは、アクリル100%の毛糸で編んだたわしです。洗剤を使用しなくても食器等がきれいになることから、水質保全にも役立ち、環境に負担が少ないと言われています。

生徒たちがつくったアクリルたわしを、海外で国際ワークキャンプに参加する人に託し、実際に使ってもらいます。自分のつくったアクリルたわしが、環境に良いものとして、世界のどこかでメッセージと共に受け取られ、実際の役に立つ活動であることを学びました。

【12月4日（火）・大学生及び社会人による国際ワークキャンプ体験談】

6クラスそれぞれ、2名のNICEのスタッフが交代で外国でのボランティア活動の体験談を語りました。

ここでは、堀　菜摘さんと田島　寛久さんの体験談を御紹介します。二人の話に、生徒たちも興味を持ち、心惹かれていたようです。

堀　菜摘さんの体験談（インドネシア）そして、メッセージ

もともとボランティア活動は単なる自己満足に過ぎず、その活動も一時的なものに過ぎないのではと疑問を感じていました。しかし、ボランティアを行うことで、何かを子供たちに伝えることができたらと考え、NICEの活動に参加しました。

インドネシアでは、当初、英語が流暢に話せず、他人に自分の意思を伝えられないことにもどかしさを感じていました。ただ、活動を積む中で、あることをきっかけに、自分が他者に本当に伝えたいと考えていることは、たとえ英語やインドネシア語に堪能でなくても、しっかりと相手に伝わることを知りました。

また逆に、外国に行ったことで、日本の様々なことを知りたいという欲も生じてきました。

高校一年生の皆さんは、いろんな人と出会うことが大切です。自己の変革は、他者との人間関係によってもたらされるものです。小さなきっかけでもいいので、人との出会いを大切にしましょう。

田島寛久さんの体験談（インド）そして、メッセージ

インドでも、ソーラー発電などの必要最低限の電力しかない、オーロビルという地域で、植林のボランティア活動を行いました。

ご飯の残りを一週間おいて肥料にしたり、トイレの大小をわけて堆肥にするなど、現在の日本ではなかなか経験できないことを体験しました。シャワーもなく、大きいバケツに入った水をすくって、頭からかけるだけの生活でした。

得たものとして一番大きいのは、新しい出会いがたくさんあったことです。大学に入ると、なかなか高校時代と同じような感覚で友人はできません。その点、ボランティア活動を行えば、自分と考え方が近い人間に出会うことができます。

その一方、当然のことながら苦労も多いです。いかに、自分が日本で楽な環境のもと、育ってきたのかを実感しました。ただ、オーロビルのような場所に行かないと、このような思いは、心の底からわいてこなかったと思います。

ボランティアは堅苦しいことではないし、ボランティア活動に参加する理由は、どのようなものであってもかまいません。ただ、自分から一歩を踏み出して、ボランティア活動に参加することが大事なことなのです。ボランティア活動に参加することによって、世界が広がります。世界が広がることは、本当に楽しいことです。勇気を出して、様々なことを体験しましょう。

【12月21日（金）・アクリルたわし】

3時間かけて、生徒たちはアクリルたわしをつくり、つくったアクリルたわしに小さなメッセージカードを添えました。先生方の協力もあり、初めて編み物をする生徒たちも、最後にはアクリルたわしを完成させていました。

NICEからは、穴竈さんと大学生2名が関わりました。各クラスをまわり、これから行く国際ワークキャンプでどのような活動をするかを話し、生徒のアクリルたわしづくりのモチベーションを高める役割を担いました。

大学生2名は、生徒たちがつくったアクリルたわしを、国際ワークキャンプへ持っていき、キャンプ地で使い、地元住民や、他のボランティアにも紹介する予定です。

○担当された　穴竈　美和さんにお話を伺いました。

○　都立国際高等学校の教科「奉仕」の目標やねらいから、NICEが授業の支援を行うことによって、生徒たちの学びをより豊かにすることができるのではないかと考え、今回の取組に携わっています。

○　都立国際高等学校の生徒たちは、とても熱心に私たちの話を聞いてくれますので、授業の支援を行うにあたって、特に苦労は感じません。

ただ、「なぜ、アクリルたわしをつくるのか。」の意義については、しっかりと生徒に理解してもらうため、丁寧に説明を行いました。

○　高校一年生にとって、少し年上の先輩である大学生等が話す、海外ボランティアの体験談は大変興味深いものなのだろうと実感しました。授業を終えて、個別に質問に来たりする、話を聞きに来る生徒が大勢いたことは、特に印象に残ることでした。

これからもNICEの持ち味である、大学生等が直接語りかけることや世界とつながることを生かして、より良い授業づくりの支援を行っていきたいと思っています。

○担当された　蒲生　眞紗雄主幹にお話を伺いました。

○　我々もNICEの担当者も、都立高校教育支援コーディネーターの事業に関わるのが初めてでした。先が見通せない中で、当該事業を始めたことから、様々な連絡・調整に苦労をしました。特に、クラス担任や他の奉仕担当教員への連絡・調整を密にする必要を痛感したところです。

○　生徒たちは、「奉仕」の大切さや共生の必要性を少しでも実感してくれたのではないかと思います。今後、一人でも多くの生徒がボランティア活動に参加してくれることを期待しています。

【連絡先】特定非営利活動法人NICE
（日本国際ワークキャンプセンター）
〒160−0022　新宿区新宿二丁目1番14号エレメンツ新宿ビル401
電話 03−3358−7140　ﾌｧｸｼﾐﾘ 03−3358−7149　URL http://nice1.gr.jp